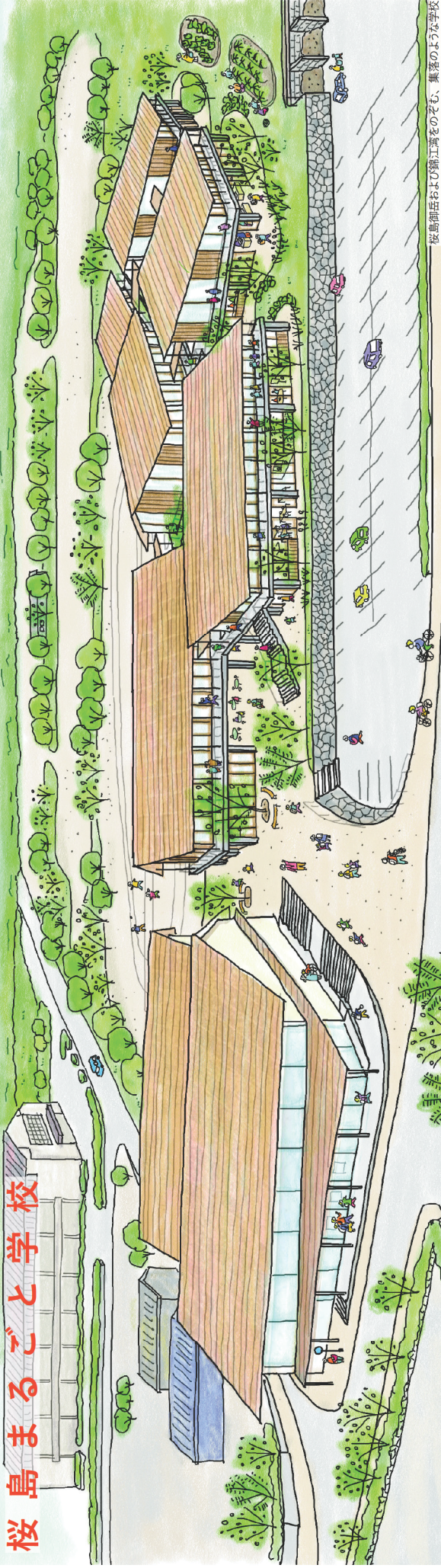


桜島まるごと学校



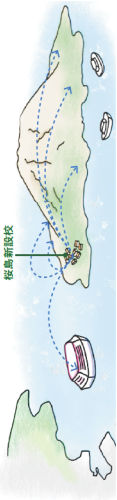
設計にあたっての基本姿勢

子どもたちの生きる力を育む学校をつくる
 桜島全体を学び舎に、子ども達の生きる力を育む学校をつくるために以下の3つを大切に設計を進めます。

- 1. 桜島で育つ時間を誇りに思える学びの環境をつくる**
 豊かな自然環境に回答した場をつくることで、桜島で過ごす時間が子ども達にかけがえのない記憶として刻まれる、豊かな学びの環境を目指します。
- 2. 違いを認め、違いを大切にできる多様な居場所をつくる**
 桜島の自然や地域とともに学ぶことで、違いを認め、違いを大切にできるインクルーシブな場を作ります。大勢でも1人でもいられる、多様な対話の場、思考と実践の場をつくりたい。
- 3. 対話を大切に、ともに考え、ともに育てる**
 子ども達の未来を考えることは、町の未来を考えること。設計にあたっては、対話を大切に、柔軟に案を変化させながら「ここにしかない」学校を鹿児島県の皆さんとともに考え、ともに育てていきます。

設計コンセプト

桜島をまるごと学び舎とする、ホームとしての学校
 日常的に桜島全体に出かけていく学びを想定した時、子ども達の活動の拠点となる、ホームとしての学校がふさわしいと考えました。第二の家のように暖か集落的に集まり、子ども達の自発的な学びを支えます。



鹿児島の魅力創出の核となるために

鹿児島に息づく郷中教育の文化を引き継ぎ、子ども達の居心地よさを確保する、RC造のピロティと木造の2階の組み合わせ

1階はRC造のピロティとし、日常時は地域マルシェや運動会時の観覧席などとしてフレキシブルに活用できるとともに、災害時には一時避難場所として吹き出しの拠点やトリアージスペースとしても使えます。2階は木造とし、県産材をふんだんに活用した木の香りがする居心地の良い空間とします。

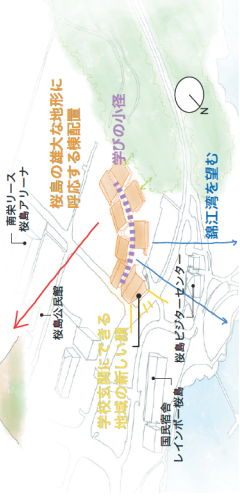


互いに教え学び合う

御岳と錦江湾への眺望に配慮した集落配置
 周辺環境に配慮し、敷地北西角に建物を集落のように配置します。



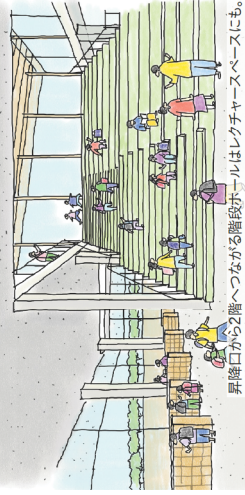
桜島の御岳への眺望



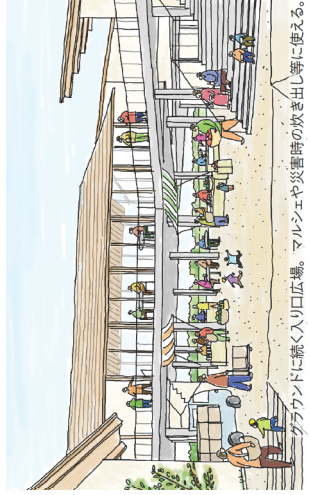
災害時の一時避難場所として

災害時の安全性と日常時の居心地よさを確保する、RC造のピロティと木造の2階の組み合わせ

1階はRC造のピロティとし、日常時は地域マルシェや運動会時の観覧席などとしてフレキシブルに活用できるとともに、災害時には一時避難場所として吹き出しの拠点やトリアージスペースとしても使えます。2階は木造とし、県産材をふんだんに活用した木の香りがする居心地の良い空間とします。



昇降口から2階へつながる階段ホールはレクチャースペースにも。



グラウンドに続く入り口広場。マルシェや災害時の吹き出し等に使えます。

桜島らしい学びへ

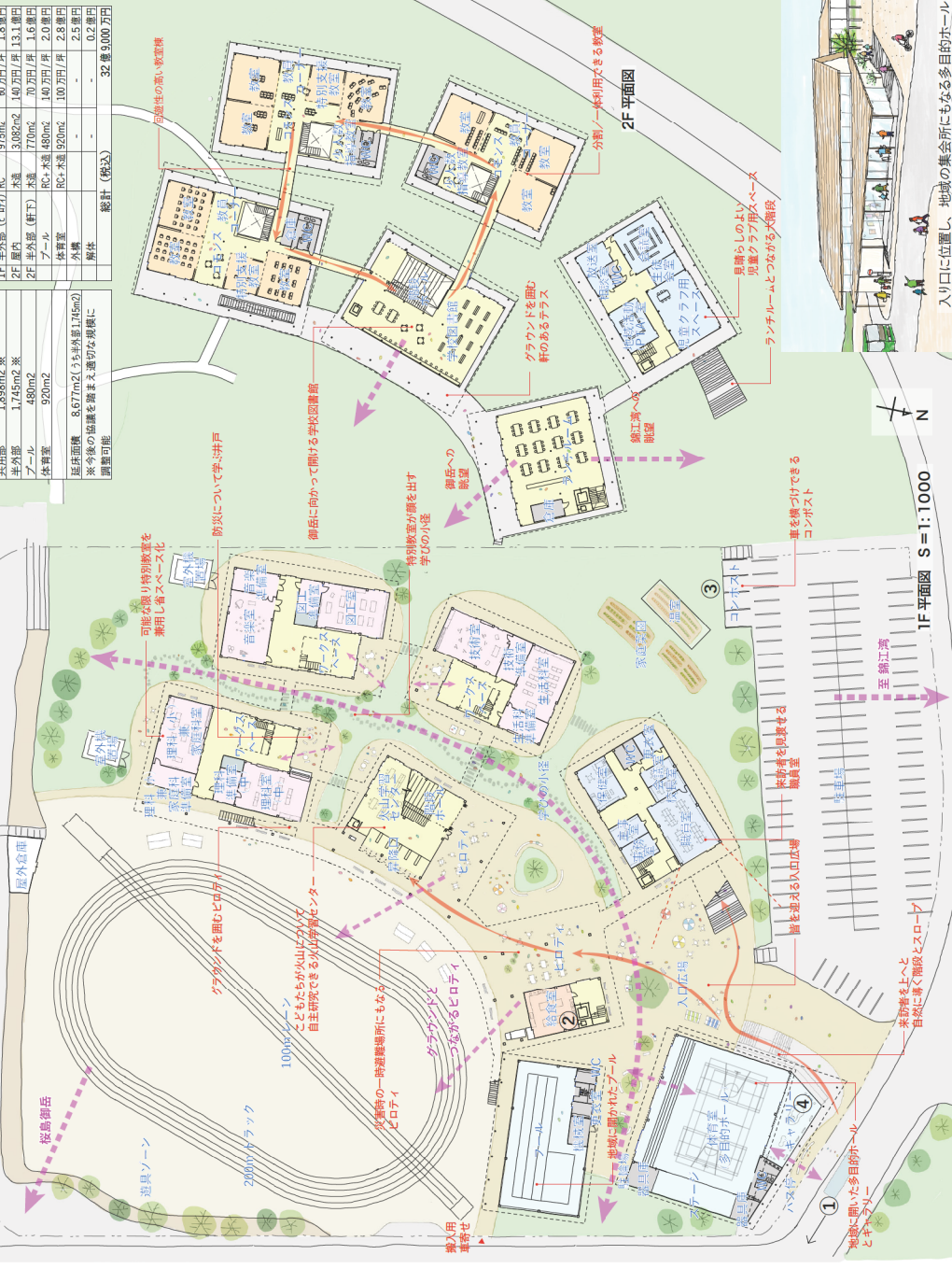
学年を超えた桜島らしい多様な学びと出会う、特別教室等が面する「学びの小径」

棟同士の間に、多様な特別教室が面する「学びの小径」を設けます。子ども達が日常的に行き交い、ものづくりや音楽、料理など、桜島をフィールドとした他学年活動の様子が垣間見られる場です。子ども達のアライバシーが確保された親密な学習空間でもあります。



子どもたちが多様な活動と出逢える、学びの小径

学年や立場を越えて教え学び合える、集落のような配置・平面計画



校島をまると学び舎としての多様な学びのアイデア

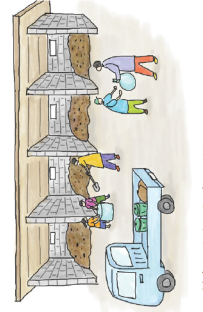
新設校の基本構想「桜島を丸ごと学び舎に」を実現するために、校内はもろもろ地域とも連携しながら、循環型社会にふさわしい多様な学びの場をつくり出します。



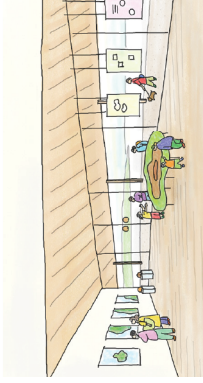
① 桜島の火山の不思議を、火山学者からフィールドで教わる



② 農家を訪れ野菜づくりを学び、給食室で自分たちで給食をつくって食べる



③ 給食や地域の生ごみで堆肥をつくり、地域にお返しすることで、顔の見えるまちづくりへ。災害時のコンポストトイレ利用も検討。



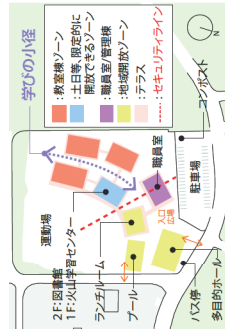
④ 郷土資料を子ども達がリサーチ・アーカイブ化し、多目的ホールでギャラリーで地域に展示。

項目	構造	面積	坪単価	工費費
1F 躯体部 (C 2F)	RC	2,450m ²	80/40坪	8.9億円
2F 躯体部 (C 2F)	RC	9,750m ²	80/40坪	1.8億円
3F 躯体部 (C 2F)	RC	3,082m ²	40/40坪	1.31億円
4F 躯体部 (C 2F)	RC	17,000m ²	40/40坪	1.65億円
5F 躯体部 (C 2F)	RC	14,800m ²	40/40坪	2.0億円
6F 躯体部 (C 2F)	RC	19,000m ²	40/40坪	2.8億円
外構				2.5億円
その他				0.2億円
合計 (概算)				32.億9,000万円

※今後の協議を踏まえ、適切な規模に調整可能。

地域開放部を明確にゾーニングし、子ども達の学びの環境に配慮

- ・地域開放部を明確にゾーニング。入口広場に面して職員室を設け、来訪者が目が配れる配置。
- ・多目的ホールは交差点に配置し、地域に開かれた集会所としても利用できる。
- ・教室棟間の「学びの小径」は、子ども達が安心して行き来しあえる場。
- ・児童の学習に不可欠な図書館および火山学習センターは部分的な開放とする。



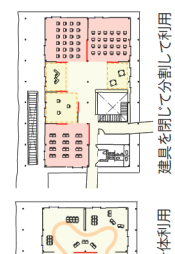
3-4つの教室と、特別教室とを組み合わせ、学年や特長の違う者同士が互いに学び合える教室棟

- ・3つの教室と特別支援学級、特別教室を同じ棟内に組み合わせ、学年や特長の違う者同士が互いに教え学び合えるように。
- ・教室間にcommonsを設け、学年を超えた対話の場とする。
- ・自分の棟にある特別教室は自分達の場所と捉え、自発的に場を使えるように。



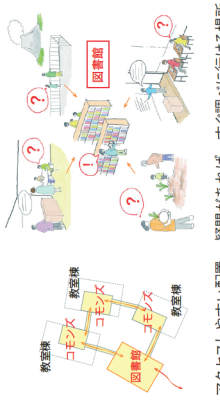
引き戸の開閉で空間を可変できるとともに、回遊性のある教室群

- ・教室同士の界壁は引き戸とし、開閉によって分割/一体利用可能。
- ・建具を開け放つことで、学年を超えた一体的な利用も可能。
- ・建具を閉めると、教員コーナーや、数人の対話の場所など、commonsに多様な居場所が生まれる。

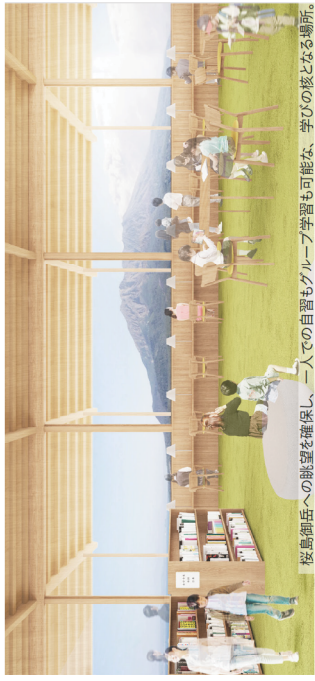


御島への眺望が開ける図書館が3つの教室棟をつなぎ、学びの中心になる

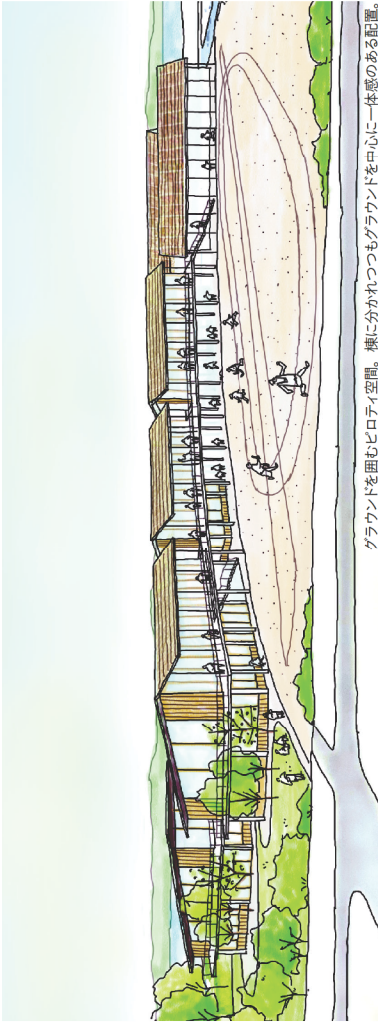
- ・各教室棟からアクセスしやすい
- ・2階に図書館を設け、生徒が自発的に図書館を訪れ、調べものや学びやすい配置としている。
- ・図書館はランチルームに隣接して配置し、生徒のプライバシーに配慮しつつも、学外からもアクセスしやすい。



アクセスしやすい配置 疑問があれば、すぐ調べに行ける場所



桜島御島への眺望を確保し、一人での自習もグループ学習も可能な、学びの場となる場所。



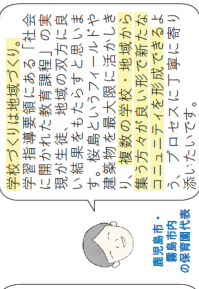
グラウンドを囲むヒロアキ空間。横に分かれつつもグラウンドを中心に一体感のある配置。

成務物の品質確保に向けた取り組み体制

桜島らしい学びの場を共に考えるチーム体制

対話を通して建築を考えること
を得意とし、東京を拠点とする
「学びの場づくり」チームと、
地域の学びやまちづくりに詳しい
鹿児島の地元の「学びの場
づくり」チームが協働し、ソフト
とハードを共に育てていきます。

佐島は理科（火山や自然）
や社会（通称高橋化や地方
創生）の重層構造が学べる場
所です。観察力・考察力・
行動力を育み、自ら問いを
立て、答えを探し続けられる
人財が育てば、鹿児島だけ
でなく日本の宝となるでしょう。
放島全体をフィールドとして
活用できる、世界に誇れる
学校を目指しましょう。



ICT活用に関する課題
・必要エネルギー削減
・省エネルギー対策
・ZEB化を以下の3つのステップに分けて検討します。

学校づくりは地域づくり。
学習指導要領にある「社会
に開かれた教育課程」の美
現が生徒、地元の双方に良
い結果をもたらすとす
ます。放島という地域から
建築物を最大限に活かして
、建設の学校・地域から
、放島という地域から
、プロデュースを形成できる
ように、プロデュースに寄
添いたいのです。

「デジタル田園都市構想」にもあるデ
ジタルを活用した効率的な学習環境。知
る（探求）とつくる（創造）のサイクル
を生かすため、分野横断的な教育環境の
整備を目指しましょう！

この場所では、放島ならではの学び
場を創出したいと考えています。知
る（探求）とつくる（創造）のサイ
クルを生かすため、分野横断的な教育
環境の整備を目指しましょう！

ICT活用に関する課題
・必要エネルギー削減
・省エネルギー対策
・ZEB化を以下の3つのステップに分けて検討します。

対話を大切に、基本設計から工事中、そして完成後まで継続してともに場を育てていく

プロセスにおいては、各段階に合わせた多様なワークショップを「学びの場づくり」で実施し、チームが一括して企画します。

- ・全国の先進的事例からベストを学び、思いや課題をともに話し合う会を開催。
- ・桜島をまとめるためのカリキュラムや仕組みづくりを、教職員の方とともに考える。
- ・放島をフィールドとした実験授業を開催。
- ・模型や図面による提案の説明やアイデア出し。
- ・限定的な調査を踏まえた基礎および建築の構造計画/構造材の本質化

ICTの活用についての課題

火山の様子をデータで把握するなど、桜島らしいICT活用

世界屈指の火山観測体制を誇る桜島
の様子を児童自らがデータで把握し、
観察することで、自然や環境の変化
を学ぶとともに、防災などの対応にも
活用します。



例えば
・全国の先進的事例からベストを学び、思いや課題をともに話し合う会を開催。
・桜島をまとめるためのカリキュラムや仕組みづくりを、教職員の方とともに考える。
・放島をフィールドとした実験授業を開催。
・模型や図面による提案の説明やアイデア出し。
・限定的な調査を踏まえた基礎および建築の構造計画/構造材の本質化

降灰を踏まえた空調・換気設備方式/ZEB化の実現の課題
・換気の取入口は直接外壁に取り付けず、ピロティ、ピロティまたは温室を介し、低風速で大きな粒子を沈着させながら建物内に取り入れる計画とする。
・排気口も直接灰が入らないよう、軒下部や二重の外壁部に設置。
・室内機はフィルターの清掃頻度に配慮し、メンテナンスのしやすい計画とする。
・室外機は灰の影響を受けにくい屋根もしくはフード付とす。

図書館をまとめる
子ども達と考える
子ども達自ら
給食を作ってみる

図書館をまとめる
子ども達と考える
子ども達自ら
給食を作ってみる

RC・木の特性を活かした豊かな表情を有す架構形式
・1階をRC造、2階から上を木造とする。1階のRC部分は、噴石などから人命を防ぐシールドの役割を担う。
・2階以上を木造とする。2階の床の遮音性能の確保、火災時の延焼を抑制する木造とする。

RC・木の特性を活かした豊かな表情を有す架構形式
・1階をRC造、2階から上を木造とする。1階のRC部分は、噴石などから人命を防ぐシールドの役割を担う。
・2階以上を木造とする。2階の床の遮音性能の確保、火災時の延焼を抑制する木造とする。

RC・木の特性を活かした豊かな表情を有す架構形式
・1階をRC造、2階から上を木造とする。1階のRC部分は、噴石などから人命を防ぐシールドの役割を担う。
・2階以上を木造とする。2階の床の遮音性能の確保、火災時の延焼を抑制する木造とする。

RC・木の特性を活かした豊かな表情を有す架構形式
・1階をRC造、2階から上を木造とする。1階のRC部分は、噴石などから人命を防ぐシールドの役割を担う。
・2階以上を木造とする。2階の床の遮音性能の確保、火災時の延焼を抑制する木造とする。

RC・木の特性を活かした豊かな表情を有す架構形式
・1階をRC造、2階から上を木造とする。1階のRC部分は、噴石などから人命を防ぐシールドの役割を担う。
・2階以上を木造とする。2階の床の遮音性能の確保、火災時の延焼を抑制する木造とする。

RC・木の特性を活かした豊かな表情を有す架構形式
・1階をRC造、2階から上を木造とする。1階のRC部分は、噴石などから人命を防ぐシールドの役割を担う。
・2階以上を木造とする。2階の床の遮音性能の確保、火災時の延焼を抑制する木造とする。

RC・木の特性を活かした豊かな表情を有す架構形式
・1階をRC造、2階から上を木造とする。1階のRC部分は、噴石などから人命を防ぐシールドの役割を担う。
・2階以上を木造とする。2階の床の遮音性能の確保、火災時の延焼を抑制する木造とする。

RC・木の特性を活かした豊かな表情を有す架構形式
・1階をRC造、2階から上を木造とする。1階のRC部分は、噴石などから人命を防ぐシールドの役割を担う。
・2階以上を木造とする。2階の床の遮音性能の確保、火災時の延焼を抑制する木造とする。

RC・木の特性を活かした豊かな表情を有す架構形式
・1階をRC造、2階から上を木造とする。1階のRC部分は、噴石などから人命を防ぐシールドの役割を担う。
・2階以上を木造とする。2階の床の遮音性能の確保、火災時の延焼を抑制する木造とする。

RC・木の特性を活かした豊かな表情を有す架構形式
・1階をRC造、2階から上を木造とする。1階のRC部分は、噴石などから人命を防ぐシールドの役割を担う。
・2階以上を木造とする。2階の床の遮音性能の確保、火災時の延焼を抑制する木造とする。

RC・木の特性を活かした豊かな表情を有す架構形式
・1階をRC造、2階から上を木造とする。1階のRC部分は、噴石などから人命を防ぐシールドの役割を担う。
・2階以上を木造とする。2階の床の遮音性能の確保、火災時の延焼を抑制する木造とする。

RC・木の特性を活かした豊かな表情を有す架構形式
・1階をRC造、2階から上を木造とする。1階のRC部分は、噴石などから人命を防ぐシールドの役割を担う。
・2階以上を木造とする。2階の床の遮音性能の確保、火災時の延焼を抑制する木造とする。

